

江戸東京

たてももの園だより 68

Edo-Tokyo Open Air
Architectural Museum



◎武蔵野の歴史と民俗 ～武蔵野郷土館コレクション2026～

◎明治時代の洋館に見る和の要素

◎倒木予防のための樹木伐採

◎注目！ 文明開化の象徴「煉瓦」

◎大学生×たてももの園 ワークショップクリエイター育成プログラムが始動！

◎スケッチブック 夜のたてももの園 秋と夏

武蔵野の歴史と民俗

武蔵野郷土館コレクション2026
会期：7月18日(土)～12月13日(日)

本展覧会は、当園の前身施設である武蔵野郷土館の収集した資料を紹介するため、毎年開催している展覧会です。武蔵野郷土館は、1954年(昭和29)に開館し、1991年(平成3)に閉館した博物館です。資料陳列室(現在のビクターセンター)では、考古資料と民俗資料の展示を行っていたほか、屋外では「民俗園」と称し、建造物や石造物の屋外展示も行っていました。

都議会に提出していました。1951年(昭和26)、3度目の提出が採択され、わずか5年で閉館します。そして、1954年(昭和29)、小金井公園内に

プロローグ 武蔵野郷土館のなりたち

武蔵野郷土館の歴史は、1934年(昭和9)に有栖川宮記念公園に開設された東京郷土資料陳列館に端を発します。東京郷土資料陳列館は、東京市の自然界や文化、市政、産業についての展示を行い、主に小学校の団体見学や公園の利用者を中心に利用されていました。その後、収蔵資料の増加に伴い、1948年(昭和23)に武蔵野博物館へと名前を変え、井の頭恩賜公園内に移設されました。

ところが、武蔵野博物館は元々十分な予算をあてられていなかったため、博物館の運営を支援していた武蔵野文化協会が都営化の請願書をたびたび



土偶

壺形土器



武蔵野郷土館資料陳列室

武蔵野郷土館が開設されました。

本章では、主に各施設のパンフレットや写真で武蔵野郷土館の開館に至るなりたちをご紹介します。

第1章

武蔵野郷土館コレクション ～考古資料編～

武蔵野郷土館では、前身の武蔵野博物館の頃から戦後の考古学史に残る発掘調査を実施していました。調査は、都内のみならず関東一円で行われ、その出土資料は武蔵野の旧石器時代から近世までを語ることできる充実ぶりとなっています。その中には、重要文化財に指定されている調布市下布田遺跡発掘の土製耳飾(縄文時代晩期)も含まれています。

本章では主な遺跡から出土した、旧石器時代から古代までの資料とともに、その一端を時代順にご紹介します。

第2章

武蔵野郷土館コレクション ～民俗資料編～

武蔵野郷土館では、農具や養蚕業で用いる座繰り機をはじめとする産業の道具や、土人形などの郷土玩具や、絵馬などの信仰に関するものなどまで、多種多様な民俗資料も多く収集していました。

これまでの収蔵品展では、民俗資料として土人形や灯りの資料を展示してきましたが、本展では看板やマッチラベルといった広告資料の一部をご紹介します。特にマッチラベルは、2700点以上収蔵されており、充実したコレクションとなっています。本展で展示するマッチラベルはそのほんの一部ですが、現在でも身近な「カルピス」の広告、地図とともに飲食店を宣伝する広告、営業日カレンダーを載せた広告や棒グラフを使用



マッチラベル 湘南電鉄 海の家



マッチラベル カルピス

した広告など、一口に「広告」といっても実に様々なマッチラベルをご覧いただけます。

エピローグ 武蔵野郷土館コレクション ～野外展示「民俗園」編～

武蔵野郷土館は、屋内展示を行うとともに、古代の村と江戸の村からなる「民俗園」と称した屋外展示を行っていました。「古代の村」のエリアには、縄文時代の竪穴住居や弥生時代の高倉倉庫を推定復元した建物が展示され、「江戸の村」のエリアには、現在も当園に残る伊達家の門や



竪穴住居(縄文時代) 1961年(昭和36)撮影

武蔵野郷土館の収蔵資料を通して、かつてこの地にあった郷土館について知るきっかけとなれば幸いです。

(学芸員 生田 真菜)

明治時代、文明開化とともに人々の暮らしが大きく変わるなかで、建築の分野においても西洋の技術やデザインが取り入れられ、洋風建築が本格的に広まっています。そして同じ明治時代でも、その始まりと終わりでは、洋風建築の姿は大きく変化しています。

東京初の洋館「築地ホテル館」

東京で最初に建てられた洋風建築は、「築地ホテル館」という建物です。この建物は、東京開市にともない居留



『東京築地ホテル館表掛之図』1869年（明治2） 歌川広重（三代）画 東京都江戸東京博物館所蔵

明治の洋館に見る和の要素

地が開かれた築地に、外国人のための宿泊施設や交易場として1868年（明治元）に完成しました。築地ホテル館の建設にあたっては、基本設計をアメリカ人技術者のリチャード・P・ブリジエンス、実施設計と工事を大工棟梁の二代清水喜助が受け持ちました。築地ホテル館の特徴として、洋風建築でありながらも日本の伝統的な要素を備える点が挙げられます。建物中央に設けられた物見のための塔や窓の外側に設けられた鰹戸、屋根に載る煙突

等には、当時の人々が新しさを感じたであろう洋風建築の特徴がよく表れています。一方で外壁には、黒い壁に白い斜線が入るナマコ壁が採用されています。ナマコ壁とは、江戸時代から日本で見られる壁仕上りの一種で、黒い平瓦の継ぎ目を白い漆喰で盛り上げた形が、海の生き物のナマコによく似ていることから名付けられたとされています。また物見の塔には、蓮の花びらを図案化した花頭窓風の、寺院建築などでよく見られる意匠があしらわれています。このように東京で初めて建設された洋風建築は、和風要素を残しながら、大工棟梁の工夫が凝らされた擬洋風建築と呼ばれる建物でした。

明治洋風建築の到達点「東宮御所」

一方で、明治時代の終わりに完成し、日本人による明治洋風建築の到達点とも称される建物が「東宮御所（現・迎賓館赤坂離宮）」になります。この建物は、当時皇太子であった大正天皇の邸宅として、ご成婚を控えて計画され、1909年（明治42）に

このことから、東宮御所は本格的な西洋建築でありながら、日本らしい意匠も取り入れた建物であったことがわかります。

洋館の和風要素にも注目

この様に、明治時代の始めには、「建築家」という職業がまだ根を下ろしておらず、江戸時代由来の大工棟梁等によって、趣向を凝らした洋風建築が生みだされていましたが、西洋技術の積極的な習得により、明治の終わりには日本人建築家の設計による本格的な西洋建築が出現するまでに変貌を遂げました。

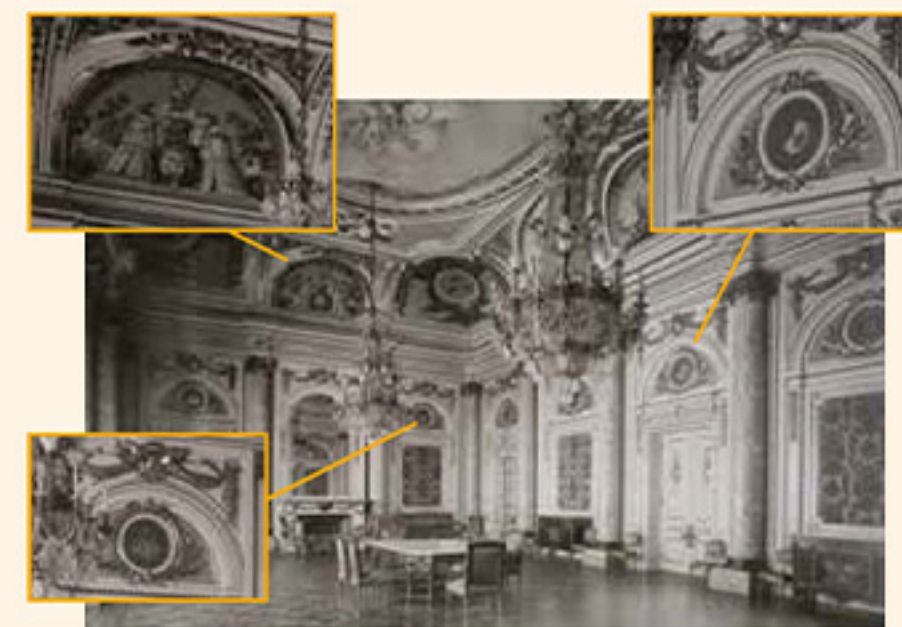
一方で、明治初期の擬洋風建築と末期の本格的な西洋建築は、取り入れられた経緯こそ大きく異なるものの、どちらにも和風の要素が見られるという共通点があります。この二つに限らず、洋風建築には和風の要素が取り入れられている例が多くあります。洋風建築をご覧になる際は、どのようなところに和風の要素が見られるかにもぜひ注目ください。

資料出張報告

江戸東京博物館リニョール記念特



三井八郎右衛門邸 シャンデリア展示風景
東京都江戸東京博物館特別展「洋館 明治の夢と挑戦」展 令和8年6月23日～8月23日



『東宮御所写真帖』『朝日之閣』1909年（明治42）頃撮影
小川一真撮影 東京都江戸東京博物館所蔵



『東宮御所写真帖』『東宮御所 正面』1909年（明治42）頃撮影
小川一真撮影 東京都江戸東京博物館所蔵

別展「洋館 明治の夢と挑戦」への出品のため、令和8年6月から一時取り外されていた三井八郎右衛門邸2階のシャンデリアが、このたび建物内に戻ってきました。このシャンデリアは、国内に現存するものの中でも最古級とされる貴重なものです。ご来園の際は、ぜひシャンデリアにもご注目ください。

（安藤亜由美）

倒木予防のための 樹木伐採



今 年度に入って、都立公園の各所で倒木が相次いで起こることは記憶に新しいでしょう。たてもの園でも桜やコナラなどが倒木しています。今回はたてもの園の樹木について、その歴史的背景と今後の整備への展望をお話したいと思います。

たてもの園は都立公園の中でも三番目の広さを誇る小金井公園の中に位置しています。園内は樹木を含む多くの植物が繁茂していますが、そもそも、この緑豊かな小金井公園はどのように誕生したのか、その成り立ちからみていきましょう。

小金井の地は、八代將軍徳川吉宗の時代、川崎平右衛門定孝が、小金井橋を中心とする上下流6kmに桜を植えたことにより、後年になって江戸近郊の桜の名所として広く知られるようになりました。時は流れて1940年（昭和15）、この年は神武天皇即位から2600年にあたるとされ、各地でさまざまな記念事業が行われます。その事業の一つに東京緑地計画がありました。今日の水元公園・舎人公園・砧公園・神代植物公園・篠崎公園、そして小金井公園は、この時に六大緑地として計画されたことに端を発します。その後、戦況の悪化により緑地としての整備計画は滞りましたが、終戦後に改めて都市公園として整備が進められました。そして、1954年（昭和29）1月、東京都立小金井公園の名称で開園しました。たてもの園の

前身である武蔵野郷土館もこの時に開館します。これ以降、東京都による公園整備は長く続いていくことになりました。

さて、小金井公園の開園から70年以上が経ちました。たてもの園内も含めて、その当時



空洞化したソメイヨシノ

植樹されたものや、中にはたてもの園正面の象徴的なキンモクセイの大木のように、それ以前から植わっていた樹木も存在しています。里山に雑木林として植樹されていたクヌギやコナラはこれだけの長期間植えられていることは想定されておらず、ソメイヨシノをはじめとした桜も多くが老齢化しています。

現在たてもの園では、倒木の予防のための計画的な伐採や植樹に取り組んでいる最中です。専門的な樹木点検を行い、倒木の危険性が認められた樹木については安全のために伐採を行います。しかし、たてもの園は実際の建物を屋外に展示している野外博物館です。歴史的建造物とともに植栽を含めた周辺環境そのものが一つの展示であり、自然の移ろいの中に、当時の人々のくらしや建物の本質的な価値を見ることができるといっても過言ではありません。緑地計画と戦後の公園開園から時を経て、さらにこの先何十年も建物とともにある植栽を願って、長期的な植栽計画を新たに策定していきます。

（持主 栗）

注目！ 文明開化の象徴「煉瓦」

た てもの園の東の広場にひっそりとたたずむ壁。これは、明治政府や東京都が明治時代に建てた銀座煉瓦街の一部です。銀座煉瓦街は、1872年（明治5）の大火をきっかけに、不燃都市を目指したもので、お雇い外国人ウォートルスの指導のもと建設されました。当時の日本は木造建築が多かったため、政府は燃えにくい材料として西洋で用いられている煉瓦を採用することにしました。

煉瓦は世界中で古くから製造されていましたが、日本で本格的に導入されたのは、西洋から様々な技術

を取り入れ始めた幕末期でした。早い時期のものでは、製鉄所の建築材料として使用されたことが挙げられます。専門の職人がいなかった当初は、煉瓦の製造を瓦職人、積み上げる作業を左官職人が請け負ったといわれています。

明治政府は、良質な煉瓦を大量製造するための工場獲得や、外国人技師による職人育成等を行うことで煉瓦も国産化して、近代的な街づくりを推し進めました。耐震性に難があったことから、関東大震災を機にコン

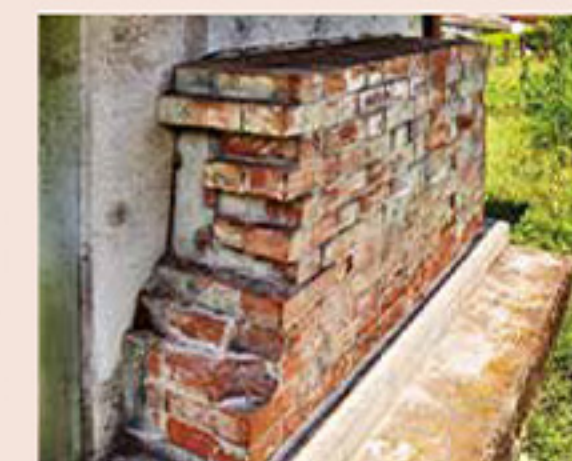
クリートへその役目を譲りましたが、それまで煉瓦は近代化に欠かせない建築材料として様々な建物に用いられました。

文明開化を象徴する煉瓦を通して、明治の日本に思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。

（学芸員 宇野 千都）



銀座煉瓦街の煉瓦壁



大学生×たてもの園 ワークショップクリエイター 育成プログラムが始動！

令 和7年度にスタートした「ワークショップクリエイター育成プログラム」は、学芸員や教員などを志す大学生たちが、2年かけてワークショップづくりを学ぶ実践型講座です。東京学芸大学との連携協定に基づき実施しています。1年目の昨年度、受講生は野外博物館の特徴や、たてもの園の建造物について理解を深め、スタッフとして教育普及活動にも参加しました。2年目の今年度は、来園者の方にむけて各自が企画したワークショップを実施します。

企画案を作成するにあたり、受講生は「何のためにワークショップを実施するのか」、「どのような手段を用いるのか」を考え続け、学芸員とも話し合いを重ねました。お互いの企画のために協力し合い、試行錯誤を繰り返す彼らの姿からは、大きな成長を感じます。何かをゼロから生み出す過程には難しさが伴いますが、そのなかにある楽しさや達成感を得られるよう、私たちも伴走していきたいと考えています。

受講生によるワークショップは、9月から11月の第3土曜とそれに連続する日曜日に開催いたします。小学生から大人の方まで、幅広い世代の方にお楽しみいただける内容がそろいました。詳細はウェブサイトにてご覧いただけます。みなさま、ぜひご参加ください！

（学芸員 山田 葵）



ライトアップされた下町中通り

夜のたてももの園 秋と夏

秋のライトアップ! たてももの

毎年実施している江戸東京たてももの園の秋の情景再現事業。今年「夜間特別開園 たてもものライトアップ」と題して、東京都が開催する東京都国際芸術祭に合わせ、11月6日(金)と7日(土)に開催いたします。

また都立公園で、季節に応じて開催されるイベント「花と光のムーブメント」が、今秋は小金井公園が会場となります。たてももの

園では小金井公園と一体となって、光に包まれた幻想的な空間を創り出します。

日ごろのたてももの園とは異なつた夜のたてももの園の趣を味わえます。光の園の魅力を堪能し、秋の宵闇を楽しんで頂ければ幸いです。

夏の「下町夕涼み」

今年の「夜間特別開園 下町夕涼み」は、ゲリラ雷雨への安全対策として、チケットの前売・定員制を初めて導入して当日を迎えました。なんと初日の8月1日は、

突然の雷雨により開園1時間あまりで中止の判断に至りました。翌日は予定通り実施できましたが、楽しみにご来園いただいた初日のお客様のことを思うと残念でなりません。しかし何よりも安全を優先した結果とご理解頂ければと思います。今後も気象災害のリスクが減ることはないものと覚悟し、より安全に事業を開催するための努力を積み重ねてまいりたいと思います。

たてももの園日誌 2026年(令和8)4月～2026年(令和8)9月

2026年(令和8)	
3/20(金・祝)～5/10(日)	「小金井桜の今昔展」(主催 小金井市教育委員会)
3/20(金・祝)～6/21(日)	特別展「昭和100年と江戸東京たてももの園」
4/11(土)・12(日)	伝統工芸の実演「東京手描友禅/蝶鉋蒔絵」
4/21(火)～5/6(水・休)	こいのぼりの展示
4/25(土)	ミュージアムトーク「庚申塔と月待ちの習俗」
5/4(月・祝)・5(火・祝)	こどもの日イベント
5/9(土)・10(日)	伝統工芸の実演「江戸指物(両日)/手描友禅(9日)/江戸文字(10日)」
5/23(土)	ミュージアムトーク「特別展「昭和100年と江戸東京たてももの園」みどころ」(手話通訳付)
6/9(火)	網島家年中行事「梅干しづくり」
6/13(土)・14(日)	伝統工芸の実演「組紐/手織り」
6/27(土)	台風の接近にともなう臨時休園
6/30(火)～7/7(火)	七夕飾り
6/30(火)～8/21(金)	網島家年中行事「盆棚展示」
7/11(土)・12(日)	伝統工芸の実演「東京組紐/江戸べっ甲」
7/14(火)～9/6(日)	ちょっと涼しいたてももの園

7/18(土)～12/13(日)	展覧会「武蔵野の歴史と民俗～武蔵野郷土館コレクション2026～」
7/25(土)	ミュージアムトーク「武蔵野の歴史と民俗～武蔵野郷土館コレクション2026～みどころ」(手話通訳付)
7/29(水)～8/9(日)	網島家年中行事「梅の土用干し」
8/1(土)・2(日)	夜間特別開園 たてももの園 下町夕涼み
8/8(土)・9(日)	伝統工芸の実演「染付/東京仏壇」
8/22(土)	ミュージアムトーク「三井八郎右衛門邸」
8/29(土)	ちょっと涼しいたてももの園関連ワークショップ「涼しげな青写真をつくろう」
9/12(土)・13(日)	伝統工芸の実演「東京手描友禅/江戸筆」
9/19(土)	ワークショップ「災害からたてもものをよむ 江戸・東京のくらし」
9/20(日)	ワークショップ「竹のひみつ発見!-つくってあそぶむかしのおもちゃ」
9/19(土)～27(日)	網島家年中行事「十五夜飾り」
9/21(月・祝)	世代間ワークショップ「わが家の思い出を描こう」
9/26(土)	ミュージアムトーク「奄美の高倉」

表紙解説

表紙の画像は、Tokyo Museum Collection (ToMuCo) の3Dコレクション (<https://museumcollection.tokyo/museums/3d-collections/>) で公開されている子宝湯の画像を3Dレーザースキャナーによって計測したデジタル画像です。同ウェブサイトでは、子宝湯に加え、前川國男邸と高橋是清邸の通常は見るできない上空からの様子も楽しむことができます。

開園時間 4月～9月 9:30～17:30
10月～3月 9:30～16:30
※入園は開園時刻の30分前まで。

休園日 毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は、その翌平日)
年末年始

交通 JR中央線武蔵小金井駅からバス5分 北口2、3番のりば→「小金井公園西口」下車、徒歩5分
西武新宿線花小金井駅よりバス5分 「南花小金井」(小金井街道沿い) から武蔵小金井駅行き→「小金井公園西口」下車、徒歩5分
※ご来園の際は公共交通機関をご利用ください。当園専用駐車場はありません。車の場合は、小金井公園の有料駐車場をご利用ください。

観覧料 一般 400円(320円)
65歳以上の方 200円(160円)
大学生(専修・各種含む) 320円(250円)
高校生 200円(160円)
*()は有料入園者20名以上の団体料金
中学生以下は無料



江戸東京たてももの園
EDO-TOKYO OPEN AIR ARCHITECTURAL MUSEUM

〒184-0005
東京都小金井市桜町3-7-1(都立小金井公園内)
TEL.042-388-3300 FAX.042-388-1711
www.tatemonoen.jp



※ご来園の際は、最新情報を公式ウェブサイトでご確認ください。